

**株式会社クエスト
2011年3月期第2四半期
決算説明会**

2010年11月11日

株式会社クエスト
JASDAQ(スタンダード) 2332
代表取締役社長 佐藤 和朗

本日のポイント

1. 上期売上高は、30億62百万円(前年比-0.3%)、営業利益は97百万円(前年比+124.7%)、経常利益は1億13百万円(前年比+132.0%)となった
【内製化による稼働率向上により営業利益が当初計画を40百万円(+66.7%)上回ると予想した為、平成22年9月22日に上期業績予想を上方修正】
2. 2010年度中期計画のテーマである「ソリューション型事業モデルへの転換と新規顧客開拓」では、
 - ①顧客の構造改革を支援するインフラソリューション基盤確立
 - ②独自のアプリケーションモデル、ERPパッケージ型モデル構築
 - ③ソリューション型ワンストップサービス展開に取組み着実な成果が得られた
3. 当社グループを取り巻く事業環境は依然として厳しく、通期の業績予想は据え置いている。引き続き金融系統合案件、需要が回復している半導体関連案件の確実な受注獲得に取り組む

I. クエストについて

II. 2011年3月期 第2四半期決算概要

III. 2010年度中期計画の進捗状況

IV. 株主還元方針

株式会社クエストについて

- 上場市場 大阪証券取引所 JASDAQ(スタンダード) 証券コード:2332
- 設立 1965年
- 代表者 代表取締役社長 佐藤 和朗
- 資本金 4億9103万円
- 事業内容 システム開発・保守、インフラサービス、
ビジネス・プロセス・アウトソーシング、IT Value-Upサービス
- 従業員 691名(2010年9月末 連結)
- 決算期 3月末
- 売上高 61億6300万円 (2010年3月期 連結)
- 経常利益 1億9100万円 (2010年3月期 連結)
- 所在地 東京都港区芝浦1-12-3 Daiwa芝浦ビル
- 関連会社 株式会社データ・処理センター、
株式会社ドラフト・イン
慧徳科技(大連)有限公司(QUEST (DALIAN) CO.,LTD.)
- 認証資格 CMMI(レベル3)、プライバシーマーク、
ISO/IEC27001:2005

2010年9月30日現在

I. クエストについて

II. 2011年3月期 第2四半期決算概要

III. 2010年度 中期計画の進捗状況

IV. 株主還元方針

連結決算概要

◆連結損益計算書 前年同期・業績予想との比較

(単位:百万円)

	2011/3 第2四半期 実績	対前年同期比		対業績予想比 (9/22発表)		対当初業 績予想比
		2010/3 第2四半期	増減率	2011/3 第2四半期	増減率	増減率
売上高	3,062	3,071	-0.3%	3,072	-0.3%	+2.1%
売上総利益	497	424	+17.2%	500	-0.5%	+6.3%
売上総利益率%	16.2%	13.8%	+2.4P	16.3%	-0.1P	+0.6P
営業利益	97	43	+124.7%	100	-2.4%	+62.6%
営業利益率%	3.2%	1.4%	+1.8P	3.3%	-0.1P	+1.2P
経常利益	113	48	+132.0%	111	+1.9%	+71.3%
経常利益率%	3.7%	1.6%	+2.1%	3.6%	+0.1P	+1.5P
四半期純利益	54	34	+61.3%	55	-0.0%	+30.9%
EPS (円)	10.41	6.40	+62.7%	10.41	0.0%	+31.0%

業績ハイライト

売上高(連結)は、30億62百万円、前期比0.3%減少
経常利益は1億13百万円、前期比132.0%増加

- 売上高 前期比 0.3%減
 - 受注環境が厳しい中、
 - ① 主要顧客である半導体関連の案件獲得が増加
 - ② 損害保険会社の統合案件や外資系生保会社からの請負開発案件などが増加
- 売上総利益 前期比17.2%増 売上総利益率 2.4ポイント増
 - 内製化の推進により稼働率が向上し利益が増加
- 営業利益 前期比124.7%増 営業利益率1.8ポイント増
 - 緊急対策本部を継続し、不要不急の経費削減を実施して営業利益を確保した
- 経常利益 前期比132.0%増 経常利益率 2.1ポイント増
 - 営業利益の増加に加えて営業外収益の増加
- 四半期純利益 前期比61.3%増 四半期純利益率 0.7ポイント増
 - 経常利益の増加により増加
 - 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響(損失 8百万円)

セグメント別連結売上高

◆前期との比較

システム開発5.3%増加、インフラサービス4.7%減少

(単位;百万円)

	2010年度		対前年同期比		
	2011/3 第2四半期	構成比	2010/3 第2四半期	構成比	増減率
システム開発	1,495	48.8%	1,421	46.3%	+5.3%
インフラサービス	1,360	44.4%	1,426	46.5%	-4.7%
その他	206	6.8%	223	7.2%	-7.4%
合計	3,062	100.0%	3,071	100.0%	-0.3%

※「その他」の事業には、受託計算サービス事業、データエントリー事業及び商品販売事業を含む。

連結売上高のポイント

システム 開発

前期比 +5.3%

金融・半導体関連の受注増加及び既存顧客の深耕による新規サービスの拡大

- ・金融系は生損保分野での統合開発案件が増加
- ・半導体関連の開発案件が増加
- ・物流系保守業務のアウトソーシングサービス拡大
- ・Notesマイグレーション案件獲得

- ・企業のIT投資の冷え込みで、一括大型案件の受注が減少

インフラ サービス

前期比 -4.7%

顧客の新規IT投資抑制によるインフラ構築案件の減少

- ・データセンターサービス、セレクトティブアウトソーシングサービスが堅調
- ・電力系企業のインフラサービスの受注拡大

- ・インフラ構築案件、リモート運用監視業務の減少
- ・顧客社員の再配置等による要員の縮小、単価ダウン、残業抑制などが影響

連結貸借対照表

◆前期末時点との比較

総資産が65百万円、1.5%減少

(単位;百万円)

	2011/3 第2四半期末	対前期末比		コメント
		2010/3 期末	増減額	
資産合計	4,450	4,515	-65	
流動資産合計	3,130	3,049	+81	有価証券の増加
固定資産合計	1,319	1,466	-146	投資有価証券の減少 土地、建物の減少
負債及び純資産合計	4,450	4,515	-65	
負債合計	828	788	+39	退職給付引当金の増加
純資産合計	3,621	3,726	-105	配当金支払による減少

連結キャッシュ・フロー

◆第2四半期の特徴

税金等調整前純利益の増加(営業活動)
定期預金払戻の減少(投資活動)、配当金支払額の減少(財務活動)

(単位;百万円)

	2011/3 第2四半期	対前年同期比		コメント
		2010/3 第2四半期	増減額	
営業活動によるCF	164	86	+78	税金等調整前純利益の増加
投資活動によるCF	-1	691	-692	定期預金払戻の減少
財務活動によるCF	-158	-216	+57	配当金支払額の減少
現金及び現金同等の 期末残高	1,276	1,647	-370	

2011年3月期 通期連結業績計画

◆連結損益計画

厳しい事業環境が続く中、期初計画達成に取り組む

(単位:百万円)

	2011/3計画 (期初計画通り)	対前期比	
		2010/3	増減率
売上高	6,430	6,163	+4.3%
営業利益	268	175	+52.4%
営業利益率%	4.2%	2.9%	+1.3P
経常利益	280	191	+46.5%
経常利益率%	4.4%	3.1%	+1.3P
当期純利益	170	85	+99.5%
EPS(円)	32.18	16.06	+100.5%

2011年3月期 期初計画達成のポイント

売上高 前年度比+2.6億円 (+4.3%)

- 金融系統合案件の着実な獲得
- アカウントマネジメントの徹底
- 開発保守業務のオフサイト化、ニアショア化による受注拡大
- 電力系企業からのインフラサービス受注拡大
- ERPパッケージ型ソリューションモデルの実践と拡販
- Lotus Notes移行ソリューションの横展開
- 稼働率を維持すると共に外注起用の積極化による受注拡大

営業利益 前年度比+0.9億円 (+52.4%)

経常利益 前年度比+0.8億円 (+46.5%)

- 高付加価値型のソリューションビジネスの拡大
- 請負型ビジネスのリスク管理強化、プロジェクトマネジメント力の向上
- 低粗利事業の再構築
- 経費削減活動の定着化

I. クエストについて

II. 2011年3月期 第2四半期決算概要

III. 2010年度 中期計画の進捗状況

IV. 株主還元方針

2010年度中期経営計画のテーマ

昨年からの顧客・業界の流れ(Outsourcing、Global、IT Value-Up®)は、
更に大きな構造変化となって現れ始めている

顧客のニーズ

- 顧客の構造改革意欲が増す
 - ・システムのグローバル全体最適化
 - ・ITベンダーの絞込み
- ITの「所有」から「利用」シフト鮮明
 - ・既成ERPパッケージの採用増える
 - ・クラウドコンピューティングの普及

業界環境

- ＜情報サービス業界 5つの潮流＞
- 1.受託開発型からサービス提供型へ
 - 2.労働集約型から知識集約型へ
 - 3.多重下請構造型から水平分業型へ
 - 4.顧客従属型からパートナー型へ
 - 5.国内競争から国際競争へ

10年度中期計画のテーマ:ソリューション型事業モデルへの転換と新規顧客開拓

①顧客の
構造改革を支援する
インフラソリューション
基盤確立



②独自の
アプリケーションモデル
ERPパッケージ型モデル
構築



③ソリューション型
ワンストップサービス
展開

⇒【中期ビジョン】 顧客とともにITの価値を高める信頼のパートナーを目指して

2010年度中期経営計画の進捗

①インフラ ソリューション 基盤確立

- “日本品質の運用サービス”のアジア展開に向け、顧客と共同検討チームを組成、実現性の検証を開始
- 社内向け開発環境のクラウドサービスを提供開始
- 外販用クラウドソリューションモデルの構築、検証

②独自の アプリケーション モデル・ ERPパッケージ型 モデルの構築

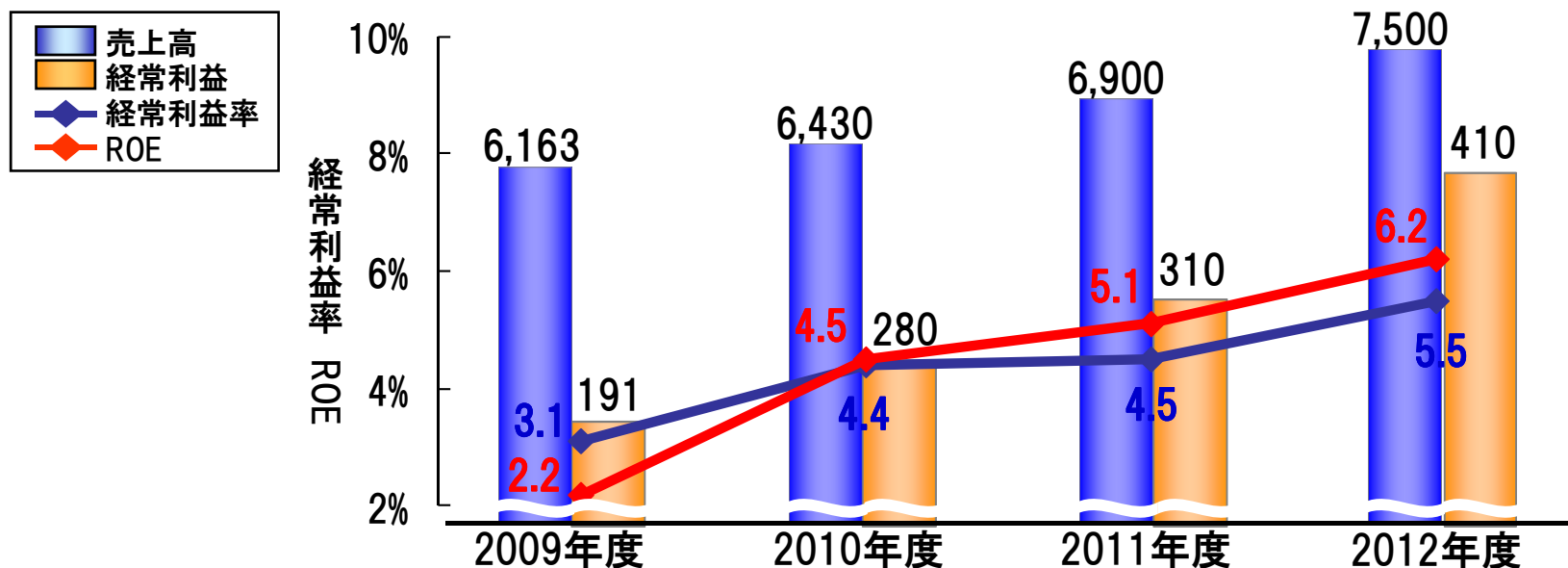
- 組立製造業向けERPソリューション
 - ・当社業務知識を組み込んだ組立製造業向けテンプレートを開発。大手製造業より受注
- Lotus Notes移行ソリューション
 - ・移行作業のモデル化(パターン化とテンプレート化)を実現
 - ・大手製造業での横展開に成功し顧客数を着実に拡大
 - ・技術者育成プログラムを整備し、現在2チームが稼働中
- ネットアプリケーション
 - ・iPhone等のスマートフォン向けのプロトタイプを構築
- 経営管理・BI(ビジネスインテリジェンス)ソリューション
 - ・マイクロソフトExcelベースのプロトタイプを開発

実行体制強化

- ソリューション型ビジネスのマーケティング企画やパートナーとの協業体制の強化を目的としたビジネス企画室を新設

2010年度中期計画 目標経営指標

経営指標		2009年度 (実績)	2010年度 (計画)	2011年度 (計画)	2012年度 (計画)
成長性 指標	売上高(百万円)	6,163	6,430	6,900	7,500
	経常利益(百万円)	191	280	310	410
	売上高増加率	-15.4%	+4.3%	+7.3%	+8.7%
	経常利益増加率	-37.4%	+46.5%	+10.7%	+32.3%
収益性 指標	経常利益率(%)	3.1%	4.4%	4.5%	5.5%
	ROE	2.2%	4.5%	5.1%	6.2%



■ 成長目標 : 売上高7,500百万円、経常利益410百万円
■ 収益目標 : 経常利益率 2.4ポイントアップ、ROE6.2%

I. クエストについて

II. 2011年3月期 第2四半期決算概要

III. 2010年度 中期計画の進捗状況

IV. 株主還元方針

株主還元方針

～株主重視の経営の実現に向けて～

【株主還元方針】

株主のための企業という経営スタンスを従来より堅持するとともに、株主の皆様に対する安定的な利益還元の実施を経営の重要課題と位置づけ、業績の伸張に合わせて、将来の技術獲得や人材確保に向けた十分な内部留保を確保するとともに積極的な利益配分を行ってまいります

【剰余金配当金基本方針】

- ・ DOE*(純資産配当率)を指標に採用、
早期に連結DOE5.0%を目指す

【2010年度の株主還元施策】

- ・ 期末剰余金配当は
普通配当金1株当たり30円を予定
2009年度実績 DOE 4.2%

(*) :DOE = $\frac{\text{普通株式に係る1株当たり個別配当金(年間)}}{(\text{期首1株当たり純資産} + \text{期末1株当たり純資産}) \div 2} \times 100$



本日はありがとうございました

将来の見通しに関する注意事項

この資料に記載されている株式会社クエストの業績見通しについては、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。

そのため、これらの業績見通しにのみ全面的に依拠して投資判断を決定することは避けるようお願い致します。

実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご理解下さい。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、世界情勢などが含まれます。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれないようにお願いいたします。